

17-6) マインドフルネス精神療法研究会

「後期西田哲学の実践論」を『宗教哲学論叢第一輯』
(宗教と哲学研究会) に寄稿しました。

叡智的自己、人格的自己がなかなかわからないようです。
今は(2017年)、これを、繰り返し、学習しています。

日本文化を語る場合、さけてとおれない「自己を越えたもの」を
意識し、実践してきた日本人、鈴木大拙が「日本的靈性」といったものです。
世阿弥の能、千利休の茶道、松尾芭蕉の俳諧、昭和の芸術家(夏目漱石、
東山魁夷、河井寛次郎、川端康成、金子みすゞなど)にも
深い絶対無の探求、あこがれがあると思います。

研究会に参加されると、論文の抜き刷りをさしあげます。
そして、続きを読みます。
絶対無の世界で最も深い「マインドフルネス」ということになります。
叡智的自己、人格的自己への実習もします。

ここに目次と概要を掲載しています。

<http://mindful-therapy.sakura.ne.jp/shuppan/mokuji-shuzai.htm>

研究会は、会員制ですが、MMT(および受講生)は出席できます。
ご希望のかたはご連絡ください。

研究会のことはこちらです。

<http://mindful-therapy.sakura.ne.jp/senmonka/soudanin-club.htm>

会場は、埼玉会館(浦和駅下車)

<http://www.saf.or.jp/saitama/access/>